

身体予報について



「身体予報」の概要



- 第29回「日本未病学会学術総会」
- 身体予報って何 ⇒ 「天気予報」
- どう判断するのか ⇒「血液構造分析」
- ・科学的な根拠
 - ⇒ 物理原理: Fractal、Photography
- ●「未病」の哲学
- ●「流水筆談V4.0」という本 (第4刷、2023/11/1)





「身体予報」ってなに



身体の状況を判断するには、

今現在の身体状況を示す健康診断だけでなく、

「天気予報」のように、

これからの身体状況を予報できることである。

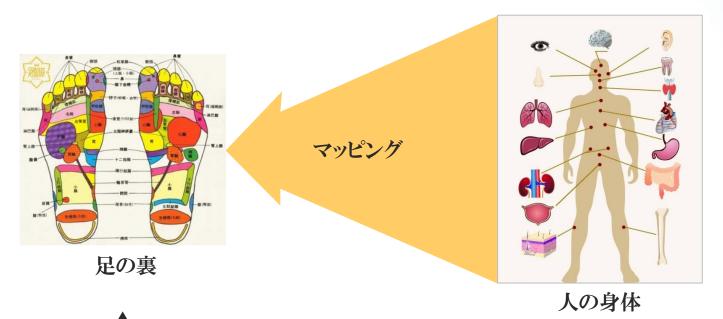
- ※「天気予報」 ⇒ 諸葛孔明の「借東風」(約1800年前)
- ※「身体予報」 ⇒ 《史記》に載せている「扁鵲本記」(約2200年前)

「身体予報」ってどうやってできるのか



例として、足裏マッサージ

足裏には、身体の臓器がマッピングされている 押された痛みの具合により、腎臓肝臓の調子がわかるという



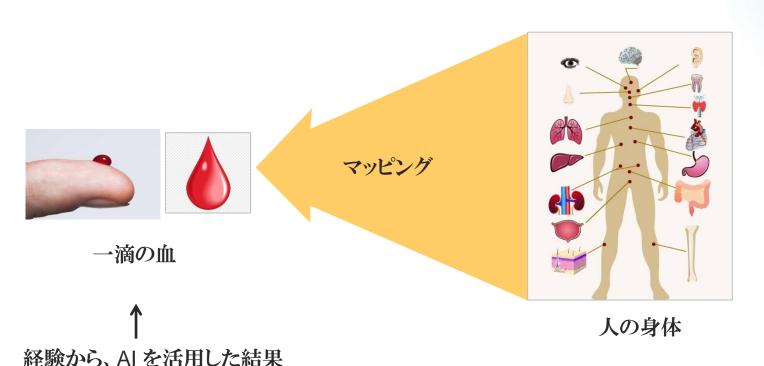
イ Al 以前から分かっていた

「身体予報」ってどうやってできるのか



血液構造分析

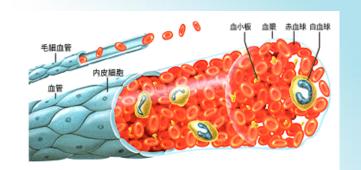
一滴の血に、身体の臓器がマッピングされている 37兆にのぼる身体の細胞の状態が、一滴の血に現れている





従来の技術:血液の成分分析

血液を液体と認識し、血液に溶け込んでいる成分を分析するものであった



分類	内 容
肝機能	アルブミン、AST・ALT、γ-GTP、ALP、LDH、総ビリルビン
心機能	CK, CK-MB
腎機能	尿素窒素(UN)、クレアチニン(Cr)、尿酸(UA)
膵機能	AMY、AMY-P型
血糖の状態	血糖(Glu)、グリコヘモグロビン(HbA1c)
脂質の状態	コレステロール、中性脂肪
電解質の状態	Na, Cl, K
炎症の状態	CRP
血液細胞の状態	白血球、赤血球、血小板



従来の技術:一滴の血によるがん検査

特殊のタンパク質とmRNAの組み合わせの検出



例1: 米国ジョンズ・ホプキンズ大学のパパドポラスの研究チームは、 2018年1月18日付の『Science』誌に、 16種類のmRNAと8種類のタンパク質の分析を組み合わせた血液検査法 を発表した。 この検査法を用い、8種類のがんの有無を平均約9割の確率で判定できるという。

例2: 2014年、日本国立がん研究センターを中心に、 九つの大学と六つの企業が参加してスタートした国家プロジェクトがあり、 血液一滴で13種のがんを早期発見できる研究が進められてきている。 2020年に実用化を目指している。

いずれも mRNAの種類とタンパク質の種類の組み合わせた「成分分析」であった



例:肩こりの検出

肩こりがある場合、「血液構造分析」ではこのような形に現れる

⇒ 脳出血、心筋梗塞を引き起こす原因のひとつ



事例1



事例2



例:手術を受けてた痕跡

過去に、身体のどっかの部位に手術を受けた痕跡は血に残る

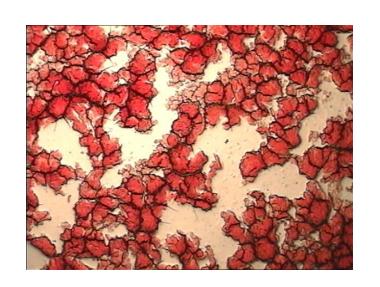


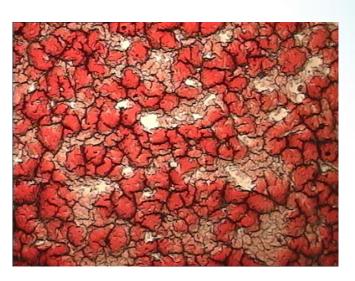
事例



例:治療効果

細胞がかなり酸化された(がんの疑い)状態と、治療の効果





治療前

治療後

「血液構造分析」のまとめ



1)身体の状態をより正確に判断できる(現在、過去問わず)

例えば、腎臓や肝臓などの不具合がわかる。 身体にがんが罹ったかどうか、どの部位に罹ったかがわかる、など。

2) 治療の効果をより正確に判断できる

薬物や健康食品などを飲んだ後、身体がよくなったのか、または、効かないのか、却って悪くなったのか、などのことがわかる。



診療の精度アップにつながる

「血液構造分析」のまとめ



3)健康の本質をたどり着けること

「食事」 いくら栄養成分があると訴えても、 身体によい結果をもたらしてくれるとは限らない。 バランスが重要。各種の栄養成分がお互い活かしている。

でないと、身体が拒否反応を示す(耐薬性?)

「気持ち」 「悪い気持ち」(怒り、悲しさ、不安、恐怖、ストレスなど)を

持つひとに対し、「血液構造分析」を行った結果、

細胞にダメージを受けてしまう様子が見られる ⇒ さらなる研究が必要

ゴムを引っ張ることで、繰り返すことにより、弾力が失われることと

同じように、細胞ないし臓器がだめになる。

などなど

「血液構造分析」の科学的な根拠



■ 結論

身体(肝臓や腎臓など)を構成する37兆個にのぼる細胞の状態が 一滴の血に反映される

■原理

- ① Fractal 原理 生物や植物の生長は、自己相似パターンで成長していく
- ② Holography原理 生物や植物の部分から、全体の情報を読み取れる

■ 感想

医療とは、物理原理やAI技術などでさらなる進化を遂げる時代

「血液構造分析」の科学的な根拠



■ 身体は部品の組合せだけではない

従来に用いられた血液成分分析では身体状態を判断するには不充分である。

また、CTやMRIなどを用い、身体を透視するような診断に頼っていることは、 身体を車と同じように部品ごとに扱い、フラクタル(Fractal)的身体が成長して いることによる身体の各臓器の内在的な関連性を見落としている。

そのため、従来の医療では、手術や救急(ショック、中毒、出血、骨折、痛み止め等) には、効果が発揮されるが、その他の疾病に対し、対症療法に留まる。 また、病気を引き起こす原因に無策でいる。

現在に施した治療のほとんどは、副作用を引き起こしている

※「イレッサ」、「バイアグラ」、日本「腫瘍循環器学会」などの例

人生を哲学的に考える



在子(BC369~BC286)は、こう言う

寿ければ、則ち辱多し(寿則多辱)

いのちながければ、

すなわちはじおおし

つまり、「未病」が持つ意味は、単なる長寿ではない



タゴール(1861~1941年)は、人生について、こう言う

夏の花の如く艶やかに生き、 秋の枯葉の如く穏やかに終りを迎えよ





高山流水 H&T

- ◆ 書名: 流水筆談 V4.0
- ◆ 判型: B6判 295ページ
- ◆ 著者: 高山流水 (こうざんりゅうすい)
- ◆ 出版: H&T
- ◆ ISBN: 978-4-9912438-0-6
- ◆ 定価: 1650円(税込み)
- ◆ 2023/11/1 第四刷発行



ご清聴ありがとうございました

お問合せ

Email: wang@shibagroup.com